

コープえひめ 谷川 志津さん

こんにちは。皆さん、ようきはあったなあ。これが私が生まれ育った田舎の愛媛の、片田舎の、外から来られたときに感謝の意を込めて使う言葉です。

さて、コープえひめでは、共同購入の物流改革にともなうセンターの仕入れ作業削減により、パート 53 名を名指しして異動を強要するという雇用問題がこの春発生いたしました。労組は全員の雇用を守り1人も犠牲者を出さないことを前面に打ちだして、支援パート 139 名を全員組織化し、4回の団体交渉の末、希望者全員の雇用を守ることができました。(拍手)

経営理事会が 53 名を名指した面接を中止に追い込んだのは、雇用を守るための署名に協力していただいた、1,000 名を超える地域の協力によるものです。この場にも参加されていると思いますが、ご協力ありがとうございました。

労働組合は一貫して、削減分をみんなで分かち合う、ワークシェアによる雇用確保を要求しましたが、経営理事会では 53 名の定員削減に固執し、強制はしないという約束で生協の会員を増やすための拡大職、いわゆる営業職なんです、それに異動する人を募るための面接を行いました。強制はしないという約束にも関わらず、面接では 53 名を名指した上で、いまの仕事を続けることはできない、拡大職に行くしかないなどと、拡大職への強制が行われました。なかには、拡大職に行くか退職しかないなどのあからさまな退職強要が行われていました。労働組合は、ただちに面接を中止するよう、抗議と申し入れを行いました。理事会は、「強要されたという皆さんの声は遺憾に思いますが、まだ説明が足りないのもっと丁寧に面接を続けます」と表明、53 名の定員削減に固執した面接を強行し続けました。

経営理事会が選任の基準を事業所長まかせにしたことで、高齢者、若い順、この人だったらできるだろうなどと、事業所によって異なる基準で指名が行われていました。基準が秘密にされた結果、一部には解雇したい人をねらい撃ちにするような面接があったと考えています。拡大職への希望者が数名というなかで、53 名の定員削減を所長に強行させるという経営理事会の進め方は、すべての責任を現場にまる投げして、自らは一切の責任をとらないのです。労働組合は、面接を行った所長の責任は理事会にありとして、団体交渉で徹底してコープえひめ経営理事会の責任を追及しました。

経営理事会では面接を強行し続けたため、労組がパート労組員を中心に、私たちの言っていることに無理があるのか、家族やお友だちに聞いてみまじょうと、署名行動にとりくみ、1週間で 700 筆を集めました。署名を始めて1週間足らずで、経営理事会は 53 名の定員削減を断念し、面接中止を表明することになりました。(拍手)

退職強要について、経営理事会はいまだに事実を認めず、謝罪をしていません。経営理事会は面接で拡大か退職しかないと、退職を迫ったことについて、「パートさんがたいへんな思いをされたことは遺憾ですが、支所長の拡大を頑張ってもらいたいという気持ちから出た言葉なので、退職強要ではありません。結果的に退職者がいないのだから、退職強要ではありません」と開き直っています。53 名の削減を現場にまる投げした責任を認める勇気がなく、あやまちを素直に認めることができない経営理事会をたたき続けるのは、労働組合しかないという思いを強くしています。

署名のなかで、「え、生協がそんなことを」とか「頑張ってください」と温かい励ましの言葉をいただきました

た。コープえひめ経営理事会は、内部のことを外部にもちだすのはいかなものかと、地域に知られることに強い懸念を示しましたが、地域の皆さんと一緒にとりくむことがいかに重要か、住民参加の労働運動の重要性を改めて認識することになりました。

最終的に家族や友人に署名という形で訴え、まったく耳をもたない理事会の考えを撤回させることができたのは、地域の皆さんの応援だと思っています。ほんとうにありがとうございました。これで発言を終わります。(拍手)